
魔法と知識の使い道

柚子色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法と知識の使い道

【Nコード】

N7716P

【作者名】

柚子色

【あらすじ】

突然、異世界に召喚された主人公。そこにいた美少女にとんでもない依頼をされてしまい！？

ちよつとばかり主人公強いです

あと作者はかなり不定期です

召喚、出会い（前書き）

初投稿の上、文章力が皆無ですが生暖かく見守ってください。

召喚、出会い

レミイ・シリユエスは只管にチヨークを動かしていた。

怒り、憎しみ。あらゆる負の感情の下に、只管にチヨークを動かしていた。

時刻は丑三時ほどだろうか。あたりは只々闇に染まり、レミイ・シリユエスの瞳は希望とも絶望とも言えない、微かな光を宿し、忍び込んだ神殿の床に描いた召喚陣を見遣ると、動かしていた手を、チヨークを止めた。

「……………こんなものかしら。」

スツと立ち上がり、脇にチヨークを投げ捨てると。レミイ・シリユエスは体内で魔力を練り始めた。

失敗は許されない。

1度きりの、たった1度のチャンス。

そう自らに言い聞かせ、緊張感を高める。目を瞑り、全身の魔力を召喚陣へ送り込む。召喚魔法は命がけである。少しでも失敗をすると得体の知れないものを呼び寄せてしまう。自らの力で御しきれないものを呼べば自分自身を破滅させることだろう。この国では召喚魔法は禁止されている。見つければ死罪は確定、下手をすれば親しい者にまで危害が及ぶ。

何故、そこまでするのか。理由は簡単である。

召喚魔法はどんなものでも呼ぶことができる。
そして失敗すれば意図せずとも、あらゆるものが召喚されてしま
う。

それが、たとえ…世界を滅ぼす悪魔だとしても。

「
召喚っ！！」

レミイ・シリユエスが叫んだ。自らの願いである『復讐』を果た
すために…。

「……………あー、全然浮かばねえや……………」

俺はすでに2時間ほど、パソコンの画面とにらめっこをしていた。
小説のネタが浮かばないのである。連載物を書き始めたは良いのだ
が、プラン不足であったために途中で停まってしまったのだ。

「……………こういう、癖が強そうなの好きなんだぜ…」

再び意味不明な独り言を呟くと、俺はまたパソコン画面と向き合った。しかし、画面は真っ暗だった。

「…ん？スクリーンセーバーが発動したか？」

俺は軽くマウスを揺すったが反応がない。何かの拍子でディスプレイの電源を落としてしまったのだろうかと思い、ディスプレイの電源ボタンを確認しようとしたとき、画面から青い光が発せられた。

「え！？…な、何だ!？」

青い光は徐々にその形を整えて行き、一つの、素人でもわかるほどの精密に作られた魔法陣の様なものへと変化した。と、思った瞬間に強烈な眩暈に襲われ、俺は意識を失った。

「ん……………う、ううはっ…」

意識が回復し、目を開けると、そこには見慣れない景色が広がっていた。いや、広がっているというにはそれ程拓けている訳ではなかった。どうやら室内………と言っても、それなりに大きな空間だと思われる。天井は高く、見たところ上に凸のアーチ状になっている

ようだった。教会だろうか。

「気がついたようね……」

声のした方に目をやると、そこには十代後半と思われる少女が、天井から伸びている丸柱に背を預け立っていた。スラッと伸びる足がなんとも美しい、そんな俺は脚フェチだった。

彼女は背の半ばまで伸びた艶のある金色の髪を肩から軽く払うと、髪の色よりも深く鮮やかに、妖しくも光る金色の瞳をこちらへ向けた。

「…………やはり駄目だったようね。」

彼女はそう呟いて、その場に力なくへたり込む。俺は慌てて立ち上がろうとしたが、強烈な頭痛に襲われた。

「ッ！？」

なんだこれは？と声に出そうとしたが、上手く声に成らずに思考は霧散してしまった。

「あまり動かないほうが良いわ。無理な召喚の反動でかなり体や精神に負荷がかかったはずだから。」

召喚？それは一体どう言う…と、問いかけようとしたが、そこで一気に意識を闇へと引っ張られ、俺はそのまま意識を失った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7716p/>

魔法と知識の使い道

2010年12月31日21時47分発行